

望月高校のあり方について

高 校 教 育 課

1 望月高等学校への通信制サテライト校設置について

望月高等学校については、第1期長野県高等学校再編計画の再編対象校として、① 地域キャンパス化（分校化） ② 他校との統合（新たな高校をつくる） ③ 募集停止 のいずれにするかを検討してきたところである。

「県立高校『学びの改革 実施方針』策定に向けて」にあるとおり、生徒の多様化が進む中、公立の通信制教育を新たな学びの場として充実させることが必要である。

こうした状況に鑑み、以下の理由から、同校に長野西高等学校通信制サテライト校設置の方向で検討する。

- (1) 現在の望月高等学校の施設を利用することにより、通信制教育を実施するための教育環境を確保することができる。
- (2) 長野市の本校に加えて、東信地区に通信制の新たな学びの場を確保することができる。
- (3) 佐久市や立科町、東御市等、比較的広域からの通学が可能な位置にある。

2 今後の進め方

2020年度（平成32年度）にサテライト校を設置する方向で、地域や学校関係者とともに検討を進める。検討にあたっては、通信制の特長を活かしながら、生徒の学習を支援する仕組みづくりやキャリア教育の充実を図る等、新しい形の高校教育の学びの場を検討していく。

(参考)

○ 通信制の改革

通信制課程は、個々のペースで学ぶことができる利点を活かした教育により、多様な背景を持つ生徒たちの新たな学びの場として近年注目されている。個に合わせた通学の形態をとりながら、ICTを活用して主体的に学びに取り組んだり、地域の様々な活動に参加して体験的に学びを深めたり、スポーツや芸術などにとことん打ち込むなど、生徒一人ひとりが自己の可能性を伸ばす環境を整えることが可能である。また、四年制大学等への進学にも対応できる。こうした個々の生徒のニーズに対応した通信制教育のあり方について今後検討を進めるとともに、現在、中信地区と北信地区に各1校配置されている通信制高校について、地理的に離れたところに住む生徒のためにサテライト校を導入するなど、通信制教育の学びのさらなる充実を図っていく。

（「県立高校『学びの改革 実施方針』策定に向けて」より）

(別紙)

望月高等学校の現状

1. 各年度の5月1日現在の生徒数(人)

年度	1年	2年	3年	全校
平成29年	51	49	56	156
平成28年	54	65	37	156

2. 望月中学校から望月高校に入学した生徒数とその割合

年度	望月中学校の 卒業生数(人)	望月高校への 入学者数(人)	割合(%)
平成29年	81	16	19.8
平成28年	91	14	15.4

3. 第1期長野県高等学校再編計画における再編基準について

1 学年2学級規模の定員に満たない学校の再編基準

【下限規模2学級を下回る場合】

以下のⅠまたはⅡの状態が2年連続した場合、

- ①地域キャンパス化(分校化)
- ②他校との統合(新たな高校をつくる)
- ③募集停止

のいずれかとする。

Ⅰ 全校生徒数が120人以下の場合

Ⅱ 全校生徒数が160人以下で、かつ卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない場合

【より小規模になった場合】

2年連続して、全校生徒数が60人以下の場合は、募集停止を検討する。

ただし、卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学校があるときは慎重に扱う。